

取り組み項目	現状、問題点	取り組み内容
多職種との業務分担	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤の受領、検査結果回収、患者搬送等で病棟を離れる必要が多く、看護業務が中断される。 ・日々の薬剤確認が煩雑で時間を要する。 ・中央材料室との業務協力 ・食事介助、口腔ケア等に時間や配慮を要す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリスタッフ、看護補助者の患者移送協力 ・中材スタッフの物品配布 ・薬剤師による注射薬点検継続 ・病棟の一次洗浄・消毒の廃止 ・<u>STによる食事介助、口腔ケアへの協力の検討</u>
看護補助者の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・早朝、夕方のケア繁忙時、配茶・配膳に看護師がまわれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護者の早出・遅出勤務配置 ・時間差勤務者の採用
事務作業補助者の配置 (病棟クランク)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種伝票類、加算要件書類の整備、更新等が煩雑。 	<ul style="list-style-type: none"> ・退職後の補充、配置の継続
看護職員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末の退職や産休・育休中の職員が常時一定数あり、補充や代替の確保が必要 ・離職防止 : 個々の事情に応じた勤務配慮 夜勤回数(増・減) 短時間勤務 休日の活用 育児支援体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・通年の求人活動 看護・介護求人、学校訪問 ハローワーク求人 紹介業者 ・夜勤専従看護師の採用 R6~8名採用 ・<u>病棟間の応援体制</u> ・短時間勤務は希望に沿って個別対応(出勤時間、退勤時間その両方等、柔軟に) <u>届け出制を条件に休日を利用した出勤によるマンパワーの増</u> ・夜勤免除の正職員枠の設定
多様な勤務形態の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員の確保が困難 ・夜勤免除の希望が多い(子育て中の職員他) 	<ul style="list-style-type: none"> ・パート職員の採用 ・働き方希望(勤務時間、日数)への柔軟な対応
業務改善の継続	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時評価項目の増大で一人の入院に多大な時間を要する。 ・記録時間の確保が困難で超過勤務に繋がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容、区分、担当の見直し ・クリティカルパスの活用 ・随時記録の指導 ・<u>電子カルテの導入</u> <u>帳票、様式の検討で省力化</u>